

Poster | 外科治療

## Poster (III-P43)

Chair: Sadahiro Sai (Dept. of Cardiovascular Surgery, Miyagi Children's Hospital)

Sun. Jul 9, 2017 1:00 PM - 2:00 PM Poster Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

1:00 PM - 2:00 PM

### [III-P43-03] ファロー四徴症術後遠隔期における PVR の早期及び中期成績

○高柳 佑士<sup>1</sup>, 小出 昌秋<sup>1</sup>, 國井 佳文<sup>1</sup>, 前田 拓也<sup>1</sup>, 岡本 卓也<sup>1</sup>, 瀬戸 悠太郎<sup>1</sup>, 森 善樹<sup>2</sup>, 中嶋 八隅<sup>2</sup>, 金子 幸栄<sup>2</sup>, 井上 奈緒<sup>2</sup>, 村上 知隆<sup>2</sup> (1. 聖隷浜松病院 心臓血管外科, 2. 聖隷浜松病院 小児循環器科)

Keywords: ファロー四徴症, 肺動脈弁置換術, 周術期管理

【背景と目的】ファロー四徴症(TOF)術後遠隔期の PVR は近年増加傾向にある。当院では近年、30歳前後を目安として、年長者には生体弁を使用し、若年者には bulging sinus graft を用いた PVR を行っている。当院における手術成績を報告する。【対象と方法】2007年から2017年に TOF 術後遠隔期に PVR を行った12例(生体弁8例, bulging sinus graft 4例)を対象とし、後方視的に診療録からデータを抽出した。手術適応は右室容量, QRS幅, 自覚症状, 不整脈発症により決定した。不整脈手術は生体弁を用いた8例中5例(62.5%), bulging sinus graft を用いた4例中1例(25.0%)で同時に行った(Maze手術2例, PV Isolation 1例, RVOT Cryoablation 3例)。【結果】手術時の平均年齢は $29 \pm 12$ 歳, 平均観察期間は $49.3 \pm 34.4$ ヶ月であった。全例で術後 NYHA は Class I まで改善, CTR は術前 $55.1 \pm 6.8$ から術後 $48.5 \pm 4.1$ まで改善した。心電図 QRS幅は術前 $162.2 \pm 31.9$ から術後 $145.7 \pm 17.5$ まで改善した。最終観察時の心臓超音波検査における PR は5例(41.7%)が mild, 7例(58.3%)が trivial 以下であり, 右室流出路の平均流速は $1.8 \pm 0.7$  mmHg であった。12例中8例(66.7%)では術後約1年で MRI 評価を行っており, RVEDVI は術前 $217.1 \pm 12.0$ から術後 $116.2 \pm 34.1$ まで改善したが, RVEF は術前 $44.8 \pm 4.9$ から術後 $40.3 \pm 9.3$ %と改善を認めなかった。両群で周術期死亡は認めず, 生体弁, bulging sinus graft いずれにおいても術後早期の成績は良好であった。再手術は1例(8.3%)で, 生体弁症例に人工弁感染に対する re-PVR を施行した。不整脈再発は1例(8.3%)に認め, 心房粗動に対するカテーテルアブレーションを要した。【考察】当院における TOF 術後遠隔期 PVR の早期及び中期成績は, bulging sinus graft を用いた症例を含め良好であった。右室容量の著明な縮小が得られる一方, RVEF は改善せず, 更に遠隔期のフォローが重要である。